

8. 「提供者である私」から「担当 CM」への支援内容・経過の概要

--

9. 下記の場面を選んだ理由

--

10. 「提供者である私」と「担当CM」のやり取りの一場面（逐語）

「提供者である私」と「担当CM」の逐語	「提供者である私」の意図したこと・視点
私：〇〇さん、今日はAさんの支援についての相談ということでよろしいですか？	スーパービジョンをおこなうにあたり、相談内容の確認を行う。
CM：はい、Aさんの様子が心配だと民生委員さんやお隣の方から、続けて電話が、事業所に来ました。	
私：そうですか、Aさんの様子が心配だと民生委員さんやお隣の方から連絡が入るのですね。それは心配ですね。 ご連絡いただいた内容について、聞かせてください。	
	復唱し、CM の困りごとについて確認を行い、心理的な負担感への共感を示す。

11. 「担当 CM」が「提供者である私」の指導により気付いたこと（何を気付いたか、「担当 CM」の変化等）

--

12. 「提供者である私」の指導を自身で振り返り気付いたこと

「適切なケアマネジメント手法」を活用した指導を行った。あるいは行うとしたら「着目した項目」と「手法を活用したポイント」も記載ください。

例えば、「大腿骨頸部骨折Ⅱ期」に焦点があたる指導の場面で・・・

「小項目：2－1－4社会参加の機会の維持・拡大」「想定される支援内容：8. 日常生活における生活機能の回復と支援の終結」で、本人の骨折前後の家庭内や、地域・社会での役割がどのように変化し、本人や家族がそれについて、どのように感じているのかを尋ねるとともに、利用している訪問リハビリテーションの職員からも、関わりの中から情報を得ることが大切であると、担当ケアマネジャーに指導するべきであった。

例えば、「心疾患Ⅱ期」に焦点があたる指導の場面で・・・

「小項目：1－2－2塩分量・水分量のコントロール」「想定される支援：5. 適切な塩分・水分摂取量の理解をうながす体制を整える」で、本人や家族の理解が足りず、医師からの指導通りに塩分・水分量が摂取されていなかったため、担当ケアマネジャーにかかりつけ医の看護師から情報をもらい、家族に毎日、塩分・水分日記をつけてもらえるように助言した。その結果、現在もAさんの再発防止ができていると考える。